

モダニズムを代表する芸術家の一人として

近年世界的評価の著しいフィンランドの国民的画家

ヘレン・シャルフベック

ひたむきに真実を求め続けた彼女の

最後のそして終生の愛と友情

ヘレン・シャルフベック (1862-1946) 生誕160年記念公開

魂のまなざし

(ファジル国際映画祭最優秀女優賞)

監督 アンティ・ヨキネン

ラウラ・ビルン ヨハannes・ホロパイネン

クリスタ・コソネン エーロ・アホ ビルッコ・サイシオ ヤルッコ・ラフティ

A film by

ANTTIJ. JOKINEN

HELENE

Laura Birn Johannes Holopainen

Krista Kosonen Eero Aho Pirkko Saisio Jarkko Lahti

配給: オンリー・ハーツ 後援: フィンランド大使館 応援: 求龍堂 ©Finland Cinematic



見つめ続け、
愛し続け、
描き続けた

近年世界的に注目を浴びるフィンランドの国民的画家ヘレン・シャルフベックの、画業と人生を決定づけた1915年から1923年の時代を描いた映画です。シャルフベックは、ロシア帝国の支配下にあったフィンランドに生まれ、祖国の独立と内戦を経て封建的な世界が崩壊していく過程と歩調を合わせるように、画家として、女性として、一人の人間として自律的に生きていきます。狂おしい愛に打ちのめされ生涯の友情を得る中で、自分自身と身の回りの存在を凝視し、その本質を描きだす手法をひたすら追求しました。抑圧的な母親や男性社会に臆せず、栄光よりも内から湧き出る情熱に従いました。どん底にあってもやがて立ち上がって背筋を伸ばし歩いていく。その凜としたシャルフベックの姿を、北欧の美しい自然とともにとらえ本国で大ヒットした珠玉作です。



原題: HELENE
2020年/フィンランド・エストニア/122分/©Finland Cinematic
字幕: 林かな
配給: オンリー・ハーツ 宣伝: 植田さやか、伊達真泉
後援: フィンランド大使館 応援: 求龍堂

STORY

1915年、ヘレン・シャルフベックはいわば忘れられた画家であり、田舎で高齢の母と一緒に暮らしながら、それでも情熱を失わず描き続けていた。そこへ画商のヨースタ・ステンマンが訪ねてきて、あばら家にあふれていた159枚の絵を発見、圧倒的な才能に驚嘆した彼は、ヘルシンキでの大規模な個展開催を決意する。しかし、ヘレンにとって真の転機は、ヨースタが、エイナル・ロイターを彼女に紹介した時に訪れた。森林保護官でアマチュア画家の青年エイナルは、ヘレンと作品の熱狂的な崇拝者というだけにとどまらず、彼女にとってかけがえのない友人そして愛の対象となる…。



ヘレン・シャルフベック

(1862年7月10日-1946年1月23日)

フィンランドのモダニズム画家。そのスタイルは長い生涯において大きく変化する。アカデミックな写実主義のややメランコリックな作品からスタートし、最後は、絵具そのものと不可解な描写が完璧にバランスを保つほど抽象的なイメージに到達した。彼女の誕生日7月10日はフィンランドにおいて絵画芸術を祝う国民の日に制定されている。

